

4 成績について

1 成績発表

- 成績の発表は、日時を定めて学業成績表により通知します。

1 前期成績

- 後期授業開始前にKAIT Walkerを介して確認いただけます。
- また、別途「学業成績表」を保証人（父母）宛てに郵送します。

2 後期成績

- 「学業成績表」を保証人（父母）宛てに郵送します。同時期にKAIT Walkerを介しても確認いただけます。
- 記載の成績は、当年度に自分が修得できた単位ということになります。

3 保証人に対する学業成績表の送付

- 本学では、9月に前期末「学業成績表」と3月に年度末「学業成績表」を保証人へ送付しています。
- 送付を中止したい場合は、7月末日までに「学業成績表送付中止届（教務課常備）」を教務課宛てに提出してください。その際、本人から「学業成績表送付中止申請」があった旨を保証人に対して通知いたします。

POINT 保証人の住所変更は、すみやかに学生課に届け出しよう。

2 成績評価

■ 本学の成績評価表示

成績評価		基準点
S	〔秀〕合格	基準 100点～90点
A	〔優〕合格	基準 89点～80点
B	〔良〕合格	基準 79点～70点
C	〔可〕合格	基準 69点～60点
N	〔認定〕合格	—————
E	〔不可〕不合格	59点以下
X	〔受験放棄その他で評価不可能な場合の不可〕不合格	—————
D	〔不可〕不合格	59点以下、次年度の受講を免除する

※再試験による成績評価には、原則としてS・Aは付きません。

- GPA (Grade Point Average) とは、各科目の成績評価 (Grade) に加重点 (Point) を付与し、それに単位数を掛け取得したポイントの合計を、履修合計単位数で割った1単位あたりの平均値 (Average) です。
- GPA制度は、米国において一般的に行われている学生の成績評価方法であり、本学でも2003年度から使用しています。

1 GPAの評価別加重点

■ GPAの評価別加重点

成績評価 (Grade)	加重点 (Point)
S	4 点
A	3 点
B	2 点
C	1 点
E	0 点
X	0 点
D	0 点

■ GPAの対象外となる科目

- N [認定] 科目や、履修単位数の上限設定 (CAP制) の制約を受けない科目は、GPAの対象外となります。

■ GPAの加重点で減算・加算となる科目

入学年度	科目名	加重点の減算・加算
2012年度以降 } 2021年度	線形代数学 I-b・II-b	同名称のa・c科目に比べて難しい内容であるため、GPA算出の際に加重点に 0.5加算 されます。
	基礎力学 I-b・I-d	
	基礎力学 II-b・II-d	
	基礎電磁気学 I-b・II-b	
	基礎化学 I-b・I-d	
	基礎化学 II-b・II-d	

2 GPAの計算方法

$$\text{GPA} = (\text{各成績評価の加重点} \times \text{単位数}) \text{の合計} \div \text{履修単位数}$$

※小数点第3位を四捨五入します。

POINT 再履修科目が合格した場合は、当該不合格科目の履修単位数が分母から除外されます。

■ 計算例

履修科目	単位数	評価	Grade Point
哲学	2	C	2 × 1
心理学	2	S	2 × 4
英語 I	1	A	1 × 3
微分積分学 I-c	3	B	3 × 2
線形代数学 I-a	2	B	2 × 2
化学 A	2	E	2 × 0
学外スポーツ	1	A	— (CAP制の対象外)
応用力学	2	B	2 × 2
基礎電気回路	3	A	3 × 3
データ解析入門	2	S	2 × 4
基礎工学演習 II	2	S	2 × 4
	21 (学外スポーツは除く)		52

$$52 \text{ (Grade Point の合計)} \div 21 \text{ (単位数)} = 2.48$$

$$\mathbf{GPA = 2.48}$$

3 GPAの予備知識

①履修キャンセル

- 「履修はしたが合格の見込みがない」と判断した科目は、自分の意思で前期は5月10日～19日（通年科目はこの期間のみ）、後期は10月18日～27日の期間に履修キャンセルができます。
- この履修キャンセルを行うと、GPA計算の分母となる履修単位が消え、GPAに影響しません。なお、この期間に履修の追加登録はできません。
- 前期に履修キャンセルした分の単位は、後期の履修時にCAP制の範囲内で加算できます。

②GPAの注意事項

- 1) 履修登録において、履修する科目を厳選することが重要になります。履修要綱やシラバスを熟読し、CAP制の範囲内で履修をします。大学の授業は自分で考え、情報を収集し、自己の責任で履修、学習することが前提です。
- 2) 最も重要なことは、履修した科目を不合格にしないということです。不合格科目の単位数は分母として計算しますので、GPAを下げることになります。「履修キャンセル」という制度はありますが、キャンセルすることで単位数が不足して留年になる恐れがあるので慎重に行ってください。